

やしろやま こ よう  
**社山古窯**

いまから700年ほど前、平安時代の終わり頃から鎌倉時代にかけて、このあたりでは瓦や茶碗などの焼き物を焼いていました。こうした焼き物を焼いていた窯の跡のことを古窯と言います。

この社山古窯で焼かれた瓦は遠く平安京に送られて、鳥羽離宮や、法金剛院などの建物で使われました。社山古窯では窖窯といって、斜面に穴を掘り、半地下式の窯を作って焼き物を焼いていました。



社山古窯で焼かれた瓦

